編集後記

◆地質ニュースの編集にたずさわって，早いもので6ヵ月がたってしまいました．調査所の研究者に易しくて，役立つ記事を頼んでいるのですが，易しく書くことはなかなか大変なようで，思うようには原稿が集まりません．研究者には，こんな当り前なことを書いたら笑われるという気持ちがあるのかも知れません．朝日新聞の日曜日の家庭欄に基本の基という記事が載っています．ネクタイの結び方とか，靴の磨き方とか，ボタンのつけ方とかが図解付で説明されています．これは，昔は常識だったことが今では忘れられていることを示しています．地質学も同様で，生き延びるためには基本の基の普及が必要だと思います．是非，ご協力下さい．

◆さて，今月号は多種多様な記事で誌面が構成されていますが，難解な記事は少ないと思いますので，興味をもたれたところからお読みください．

◆11月6日に，活断層などの研究成果の普及講演会が東京で開催されますが，本号に掲載されている阪神大震災関連の2編が予備知識になればと思います．

◆私の知り合いに，山に行楽に行ったついでに地質調査ができると思っている人がいます．「飯豊連峰の地質」をお読みいただければ，それが間違いだということがわかります．地質屋は地質現象を明らかにするために，人の踏み込まない谷川に露頭を求めて調査に入ります．そこには色々な危険が待ち受けていることがあります．少し危険だからといって調査を中止したら地質図はできないのです．地質図は単なる塗り絵ではなく，学術的根拠に裏付けされた科学図で，誰にでもできるというものではありません．地質学を存続させるためには，若い後継者を必要とするのです．

◆「八幡平湿原の話」は読者の小岩清水氏からいただきました．著者は高校の先生で湿原の研究に勢力的に取り組んでおられます．この方は湿原の温度を測定するために，夜を徹して，湿原の周りを歩き廻るそうです．その実測値に基づいて湿原の環境・保護を論じておられます．最近は地球環境論が盛んに論じられていますが，どこまで小岩さんのように実測データに基づいた話なのか心配になります．今もどこかで，一人で郷土の地質を調査している読者の方もいると思いますので，原稿をお寄せください．

◆現在は，地形図は簡単に手に入りますが，昔，諸先輩が調査されていたころは国の軍事機密だったそうですが，ご存じでしたか．

（有田正史）

地質ニュース編集委員会
委員長：有田正史
副委員長：石井武政
委　員：佐藤興平・今井　登・村上文敏・大熊茂雄
顧　問：林　暉・石原舜三・大嶋和雄・高橋　博
事務局：総務部業務課広報係（山崎　浩・谷田部信郎）
〒305 つくば市東1−1−3　地質調査所
地質ニュース編集委員会
事務局　Tel. 0298−54−3520
Fax. 0298−54−3504

地質ニュースに関するご意見は編集委員会へ

地質ニュース　第506号　1996年　10月号
定価　¥770　〒実費
1996年10月1日　発行
編集　工業技術院地質調査所
発行人　株式会社　実業公報社
代表者　林　光生
発行所　株式会社　実業公報社
東京都千代田区九段北1の7の8
Tel.（03）3265−0951（代表）〒102
振替口座　00110−6−32466
麹町局私書箱第21号
印刷　小宮山印刷工業株式会社

©1996 Geological Survey of Japan

●本誌は東京都の霞ヶ関政府刊行物サービスセンター、八重洲ブックセンター本店およびつくば市の友朋堂書店本店に常備してあります．品切れの際は店頭で注文してください．